

# 羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

# COMPASS

第 123 号 2017.9.30(土)発行

関西外国語大学  
教職教育センター

SCET+

## 外大出身の英語教員に求められていること

外国語学部 教授 梶田 純子

関西外国語大学出身者の英語教員採用数が多くなったことは、喜ばしいことだと思います。数ある大学の中で、本学の学生の採用人数が増えているのは、何故でしょうか。もちろん学生の皆さんが一生懸命勉強し、教員採用試験を突破されたからでしょう。しかし、もう一度考えてみてください。世の中が、教員に求めているものとは何か。そして関西外国語大学出身の英語教員に求められていることとはどういうことなのかを、です。

それは、世界各地から来た先生や留学生との交流、また留学や旅行での経験があるからではないでしょうか。急速に進むグローバル化の中、これからの日本の教育で、多様な価値観を認める人を養成していくということが、重要視されていると考えます。国内において、外国にルーツのある生徒たちが増えて来ています。英語だけではない世界各地から来日した児童・生徒、祖父母や父母が外国から来たという生徒、そんな生徒たちの気持ちをわかってあげ、共存共生の重要性を生徒たちに考えさせるように導けるのは、様々な国に行ったことがあり、そこでの経験を積んだ外大生に託されているのではないのでしょうか。また一度も日本を出たことのない児童・生徒、外国の人と会ったこともない、話したこともない児童・生徒。そんな児童・生徒に、どうすれば友人になれるか、相手を不快な気持ちにさせないか、それを伝えられるのも外大生ではないのでしょうか。

世の中が外大出身の教員に求めるものは、多様な社会で生き抜いていく、できるだけ世界の人たちと仲良く幸せな人生を送ることができる人を育てていくことだと思います。

## ——☆学生人材バンク活動報告☆——

### 1、『国際交流キャンプ』

四條畷高等学校の高校生 26 名が 9 月 16 日（土）、ICCにて「国際交流キャンプ」を行いました。英語のみを使って1日を過ごすという、高校生にとっては少しチャレンジングなプログラムです。外大生と留学生も 25 名が参加し、外大生が高校生と留学生をつなぐサポートに入ることにより、プログラムが進むにつれて徐々に打ち解け、時には歓声も上がるほどの盛り上がりを見せていました。今回、サポートをしてくれた学生に感想を聞いてみました。

科目等履修生 平田愛さん

9月16日、私は四條畷高校国際交流キャンプに学生スタッフとして参加しました。英語のみを使って様々な課題に取り組むという内容で、英語をただ話すだけでなく、英語をコミュニケーションのツールとして利用し、問題解決をゴールに、協働することを大切にしたいイベントでした。

企画の内容は数日前に四條畷高校の教員の方々と打ち合わせを行い、さらに学生のみで、どのような点に配慮するべきか等を話し合い、当日を迎えました。



活動の内容などは全て高校の方で決めていただいたので、私たち学生スタッフの役割としては、まずイベント全体の司会進行を行うこと、また、グループごとに分かれて活動する際に、留学生の英語をかみ砕いて高校生に説明する等して、高校生と留学生の意思疎通を手助けすることでした。

四條畷高校の生徒はとてもやる気にあふれ、彼らの意見を英語で一生懸命伝えようとしていて、スタッフとして私も「とにかく彼らの手伝

いをしたい!」と思いました。中でも一番印象に残っているのは、タバーゲームという活動をしているときの出来事です。困っている生徒がいたので、彼女のもとに行って少しのヒントを英語で教えました。私のアドバイスを基にその生徒がもう一度説明をするとほかの留学生たちがすぐに理解して” Good job!”とその生徒を褒めていました。その時の彼女の嬉しそうな、恥ずかしそうな表情を見て「もっと頑張ろう」と思えました。はじめは恥ずかしがって自己紹介をしていた彼らが、イベントが終わるころには留学生たちと楽しそうにダンスを踊ったり、写真を撮ったりしている姿を見て、少しでも生徒たちが「英語で交流できた!」や「英語を使って自分を表現できた!」と思ってもらえたのかなと感じました。



全体的な反省点としては、活動の説明をより詳しく、わかりやすく行うべきだったという点です。私もこんなに大勢の生徒、留学生相手に説明をしたり指揮をとったりすることが今まであまりなかったもので、説明が抜け落ちてしまったり、移動の指示が曖昧で生徒を困らせてしまったかなと思います。しかし、四條畷高校の先生方や他の学生スタッフ、留学生に助けられ、なんとか最後まで大きな問題なく進めることが出来ました。この反省点を次に活かせるように、また生徒たちの笑顔が見られるように、今後もまだまだ学ぶことがあると思いました。四條畷高校の皆さんや留学生たちから沢山のことが学べた一日でした。

英語キャリア学部 英語キャリア学科 4年生 田中楓子さん

今回、この国際交流英語キャンプのボランティアに参加して感じたことは、生徒の意見を英語で引き出すことの難しさと、事前準備と情報共有の大切さです。すべて英語で活動を行おうとすると、生徒にとって分かりやすい英語を使うことはもちろんですが、生徒が言いたいことを英語で表現できる



ような工夫をすることが必要になると強く感じました。活動中は、できるだけ生徒が自分の意見を英語で表現できるように、質問を工夫することに専念しました。質問の中に表現のヒントを入れたり、抽象的な質問ではなく具体的な質問をしたりと、生徒が英語で「話せた」と思えるように注意しました。結果、生徒のアンケートでは、「英語を話せた」と感じていた生徒が多くいたということを知り、四條畷高校の先生から教えていただきました。

また、本番約1週間前には、四條畷高校の先生方と打ち合わせをしました。準備期間が短い中で、活動内容は先生方が考えてくださっていたのですが、大学生のボランティア全員で集まって当日の流れや内容を確認する時間をあまり取ることができませんでした。そのため、当日は大学生の中で情報共有が十分にできず、生徒や留学生に対する指示が曖昧になってしまう場面もありました。この先、教員として働いていく上で、事前準備や情報共有が求められる場面が多くあると思います。その際には、今回のボランティアで学んだことを教訓にしたいと思います。

## 2、『海外教職インターンシップ』

8月12日～9月3日の3週間、カナダ、バンクーバーで10名が、体験しました。このプログラムは、体験した学生がまだ少ない一方、興味をもっている学生は多くいます。そこで、今回の学生の貴重な体験談を入口に、『海外教職インターンシップ』がどのようなプログラムなのかを知る機会としてもらい、次回以降参加を検討している学生への良い情報源になればと考えています。

外国語学部 英米語学科 1年生 松崎雄哉さん

今回参加したインターンシップは、海外教職インターンシップというプログラムで3週間カナダに行きました。具体的な内容としては、1週間語学学校に通い、後の2週間はデイケアなどの施設にそれぞれ派遣され、アシスタントのスタッフとして活動しました。

語学学校では、様々な国出身で幅広い年代の人たちと、授業を受けたり英語で会話をしたりすることができました。知り合った人とは、今でもSNSを通してやりとりが続いています。

僕が派遣された、インターンシップ先のデイケアでは、ほぼ毎日イベントがあり、最後はバーベキューをしたりしました。保護者の人からお菓子をもらったり、子供たちからプレゼントをもらったりとても嬉しかったです。

ホストマザーやシスターたちもいい人ばかりで、いつも気にかけてくれて、毎日の会話が待ち遠しかったです。お好み焼きを作ったりして、さらに日本に興味を持ってくれました。初めて毎日が英語の環境になって、どういう風に話すのかが分かってきて、会話に対する自信が付きました。土日は自由行動だったのでカナダの観光地をまわったり、アメリカのシアトルに行ったりしました。

3週間と短い期間だったのにもかかわらず、とても多くの経験や体験、そしてたくさんの人に出会うことができました。初めて海外に行ったこともあって、入国審査やホストファミリーとの生活、そして日本語がほとんど通じない環境に戸惑うときもありましたが、日本にはできない貴重な経験をすることができました。今度はもっと長く海外に行きたいと思います。

外国語学部 英米語学科 3年生 増田知世さん

このカナダ、バンクーバーでのプログラムは全部で3週間になります。1週目は現地の語学学校に通い、基本的な英語力を身につける授業をします。休み期間に行くため、他の国から来た留学生もたくさんいました。放課後に学校が開催している気軽に参加できるアクティビティもありました。2週目、3週目はそれぞれ事前に知らされていた幼稚園に行きます。私は2週間のうち、1週間ずつ違う幼稚園に行きました。最初に派遣させて頂いたところは幼稚園というより学童保育みたいなところで、子どもたちの年齢も4~9歳と幅広く、たくさんの国の子どもたちがいました。内容としては大半が一緒に遊ぶことでした。他にもスナックを食べる、トリップの付き添い、アクティビティのお手伝いなどをしました。カードゲームなど日本の遊びとは違って、ルールを教えてもらうことから始まりました。子どもたちとの距離を縮めるためにも積極的に話しかけに行き、ルールを教えてもらい、たくさん遊びました。また私も日本から折り紙を持ってきていたので、手裏剣と一緒に作りました。大好評でとっても嬉しかったです。とても楽しかったのですが、やはり慣れるまでは最初は何を話しているのかわからないということもありました。しかし最終日にはみんな来週から会えないと寂しいと言ってきて、全員から絵のプレゼントとハグで泣いてしまいました。2週目は1~5歳までの子がいる保育園に行きました。1週目とは違い、話せる子が少ない中でどうやって遊んだらいいのか考えることも多かったです。内容としては一緒に遊ぶ、ご飯のサポート、散歩、お昼寝をしました。みんながだんだん懐いてくれて話してくれたり寄ってきてくれたりするのがとっても嬉しくて可愛かったです。この2週間で年齢も全く違う幼稚園に行き、とてもいい経験をさせて頂きました。この経験を是非自分の将来に活かせたらいいなと思いました。



### 3、『小学校いきいきプログラム』

年間を通じて継続的にグループで活動する、この『小学校いきいきプログラム』も3分の1を終えました。初めは戸惑っていた学生も、この活動の意義や内容を理解し、徐々に自分たちのスタイルが出来上がってきているところです。学生が作り上げた英語活動を小学生に提供するというわかりやすい活動ではあるものの、グループであるがゆえに苦勞することや児童との接し方など、工夫次第でまだまだ成長の余地はあるようです。現在進行形の学生の考えを聞いてみました。

外国語学部 英米語学科 3年生 岡本麻里さん

いきいきプログラムに参加し始めた当初は、小学校に通う児童と接した経験もなければ、指導案も書いた経験もほぼないに等しい状態でした。そのような状態からのスタートでしたが、毎回の活動を通して児童や小学校の現場の先生、保護者の方のアドバイス、そして、一緒に活動している仲間からも多くのことを教わり、この経験はとても貴重なものだと感じています。

最初は内容を考えることや指導案を書くのに精いっぱい、児童により良い活動を届けようと思う余裕が持てませんでした。しかし、回を重ねるごとに、こちらの工夫次第で目を輝かせながら一生懸命、活動に参加してくれるのだということがわかり、また次も参加したいと思ってもらえるような内容の活動をしないといけないと思うようになりました。

こちらの活動を進めるテンポが遅いとだらけさせてしまう原因になるということや、児童の頑張りを認めてほめてあげることが大事だということなど、机の上での学びでは実感できないことも体験させてもらっているの、土曜日の活動に参加してくれている児童に感謝しつつ、これだけたくさんの方を教えているのだから、少しでも私たちにできることはやらないといけないと思っています。正直なことを言うと、反省することや、大変だなと感じることは少なくないのですが、この活動でしか得られないものがたくさんあると思うので、この活動に参加させてもらって良かったなと思います。

個人的には、児童には、できればいきいきの活動を通して英語に慣れ親しんで、得意や好きとまではいなくても嫌いにならないでもらえたらうれしいです。そのためにも、よりよい活動内容にするという形で恩返しできたらなと思います。

## ——★今後の学生人材バンク活動予定★——

教職教育センター前掲示板も必ず確認してください。

- ・小学校いきいきプログラム:10月14日(土)枚方市立山田小学校、枚方市立平野小学校
- ・子ども大学探検隊・中高生を対象とした大学体験事業:10月21日(土)10:00-14:00
- ・OB・OG教員のつどい:10月28日(土)
- ・楠京阪幼稚園 Halloween Party:10月31日(火)10:00-11:30
- ・平野フェスティバルお化け屋敷:11月4日(土)
- ・交野高校 English One Day Camp:11月4日(土)

## シリーズ 「心の窓を少し開いて！」

短期大学部 教授 明石一郎

### 【やる気・根気・元気】

子どもに育みたい3つの「気」がある。それは、「やる気」「根気」「元気」だ。何事も「やる気」が一番。食事食欲がないのにいくらご馳走を出されてもすすまない。それから、じっくり物事に取り組むには「根気」もいる。そして、「健康な肉体に健康な精神が宿る」と言われるように、「元気」が生活の基本である。

望ましい子どもの姿の根幹に、この3つの「気」を据えたい。

教育の究極の目標は何か。それは「生きる力」の育成である。

野生のイノシシには、家畜の豚にはない3つの力があるという。

それは、

- ①獲物を捕る力（経済力）
- ②敵や病気、自然災害などの危険から身を避ける力（生活力）
- ③群れの中で過ごす力である（コミュニケーション力）

これらは、厳しい自然の中での「生きる力」だ。

一方、海外での留学生活に求められることは次の3つと言われる。

- ①現地の食べ物を好き嫌い無く食べられること（食事）
- ②誰とでも友だちになれること（仲間）
- ③何処ででも眠られること（睡眠）

そのためには、幼い頃から様々な体験から「自分のことは自分でできる」ことと「人のために役に立つことができる」力を身につけることが大切である。子どもたちが元気で賢く優しく、よりよく生きていくためには、学び、つながり、生活習慣の確立を通じて「やる気・根気・元気」を育むことからだと思う。

#### 編集後記——教職教育センターより——

今号は羅針盤 123 号…響きがいいですね。買い物の合計が 777 円だった時もついレシートを人に見せたくくなります。素敵な並びの学籍番号の人もいるでしょう。iPhone で有名なアップルの顧客サポートの電話番号は 27753 で語呂合わせをしています。また、本日 9 月 30 日はくるみの日です。

算数や数学が苦手な外大生がたくさんいると聞きますが、世界共通で使われていることを考えてみると、数字こそ異文化を知る入口になる気もします。

「学籍番号は一生忘れない」という卒業生もいます。みなさんもその 6 桁にいろいろな思い出を詰め込んでください。